

日大土木会会報

発行：日大土木会広報部会
〒101-8308
東京都千代田区神田駿河台1-8
日本大学理工学部土木工学科内
TEL：03-3259-0662
FAX：03-3293-3319
http://www.nu-dobokukai.com

令和元年度 通常総会 報告

令和元年度の通常総会が、去る六月二十二日(土)に、理工学部駿河台校舎一号館一三二教室において開催されました。

総会開会に先立ち、昨年会長に就任された佐伯謹吾氏(生産工・土木・昭和四十五年卒)より、

会長就任されてからの一年間を振り返る挨拶がありました。

総会の議事は、本会副会長の神保廣光氏(理工土木・昭和五十二年卒)が議長に指名され進められました。事前に準備



挨拶される佐伯謹吾会長

【第一号議案】

- (一) 平成三十年度収支決算報告及び監査報告
監査報告：重村智氏
(理工土木・平成七年卒)
(収支決算表あり)
- (二) 事業報告(抜粋)
・会員数：二二〇名
・年度内入会：二名

第1号議案

平成30年度 収支決算

(1) 収支決算総括表

(平成30年4月1日から平成31年3月31日まで)

収入	1,048,025円
支出	486,202円
次年度繰越収支差額	561,823円

1) 収入の部

金額単位：円

科目	予算額	決算額	増減
会費収入	1,000,000	422,830	▲558,170
總會収入	150,000	69,000	▲81,000
雑収入	0	10,000	10,000
前年度繰越金	546,195	546,195	0
収入合計	1,696,195	1,048,025	

2) 支出の部

金額単位：円

科目	予算額	決算額	備考
1. 事業費	600,000	264,315	
会議費		102,000	總會懇親会他
印刷製本費		36,405	会報等印刷
教育補助費		80,000	各学部教育補助
ホームページ等		45,910	サーバレンタル等
2. 管理費	600,000	221,887	
消耗品費		27,550	事務用品・封筒
通信運搬費		151,849	總會案内発送 他
交通費		15,000	東京-郡山往復
会合費		12,488	事務局食事お茶代
アルバイト費		15,000	總會学生手伝い
3. 次年度繰越額	496,195	561,823	
支出合計	1,696,195	1,048,025	

同 退会：二十五名
同 死亡：一名
・三学部四学科への教育補助金の贈呈を実施
(各学科二万円)
・会報(第二十五号)の発行、及びホームページの更新
・特別講演会(平成三十年六月)の実施
講師：梶山 修氏
(元東京都都市整備局長)

『都市づくりの今日的な方向性』
・学生向け土木技術の伝承に関する講演会(平成三十年五月)の実施
講師：加藤 巧氏
(都市再生機構)
『東日本大震災の復興に携わる実務者からの特別講演』
・「地盤の会」及び「構造の会」の支援

【第二号議案】
令和元年度の事業計画について、以下の通り各種事業が承認された。
(一) 令和元年度 事業計画(抜粋)
・会員名簿・会報(第二十六号及び第二十七号)の発行
・会員数増加に向けての検討



監査報告(重村氏)



議長(神保氏)



総会の様子

- ・ホームページによる会員向け情報の発信
- ・会則及び細則の見直し
- ・特別講演会の開催及び在学生向けの就職支援に関わる講演会等の実施
- ・三学部四学科への教育補助金の贈呈
- ・研究発表会(第十九回地盤の会研究会等)の開催に向けた支援

【第二号議案】

(一) 令和元年度
 予算案に関する件
 ・令和元年度の予算案については、平成三十年度の予算及び決算を参考に立案した。会費収入が落ち込んでいるため、魅力ある活動にしていくことも付け加えられた。(予算表あり)

【第四号議案】

第四号議案の「その他」につきまして、事務局としては議案用意がなく、出席者による発議もなかったため、削除となった。
 総会の議案としては、第一号、第三号のいずれの議案とも満場一致で事務局の提案のとおり承認されました。
 なお、令和元年度通常総会

第3号議案

令和元年度 予算案

1. 収入の部

金額単位：円

科目	令和元年度予算額	平成30年度決算額	備考
収入			
会費収入	1,000,000	422,830	年会費
その他収入	150,000	79,000	総会費・利息他
前年度繰越収支差額	561,823	546,195	
収入合計	1,711,823	1,048,025	

2. 支出の部

金額単位：円

科目	令和元年度予算額	平成30年度決算額	備考
事業費	600,000	264,315	総会・委員会・印刷製本・講演料・活動支援・旅費等
管理費	600,000	221,887	消耗品・通信運搬・アルバイト等
予備費	0	0	
次期繰越金	511,823	561,823	
当期支出合計	1,711,823	1,048,025	

の議案書を日大土木会ホームページ (<http://www.nju-tuodokukai.com>) にPDFファイルで掲載しておりますので、詳細につきましては、こちらも併せてご参照願います。
 (パスワードは「tuodokukai」となります。すべて小文字で入力してください。)

【懇親会報告】

通常総会、特別講演会に引き続き、十七時十分より駿河台校舎1号館2階カフェテリアにおいて懇親会が開催されました。特別講演会において講師の杉澤里美氏も交えて、三十名程の参加がありました。
 懇親会は、はじめに佐伯謹吾会長より開会の挨拶があり、



懇親会の様子

り、直前の特別講演会で「下水道のあれこれ」と題して講演された内容が大変面白い切り口であったと触れ、講師の杉澤氏への御礼がありました。続いて、本会2代会長を務められた森元峯夫氏より、挨拶ならびに乾杯の発声をいただき、歓談となりました。森元氏からは、環境が大きく変わる中で、文化をつくりあげるのが土木であり、土木技術者、教育者、学生とも

に、誇りをもって取り組んでいたきたい旨の激励がありました。
 歓談では、学部学科の枠を越えた本会ならではの日大土木の卒業生の交流が行われた。また、歓談中には、理工学部土木工学科の中村英夫教室主任、同学部交通システム工学科の峯岸邦夫教室主任、生産工学部土木工学科の小田晃主任教授より、それぞれ学科の近

況並びに本会の教育支援に対するお礼がありました。なお、工学部土木工学科の渡邊英彦教室主任は公務と重複したため欠席されました。その後、日本大学副学長を務める生産工学部土木工学科の落合実教授より挨拶があり、日本大学全体の危機管理等の組織改革、入試動向等の報告とともに、本会に対し、学生向けの講演会等をはじめとする学生教育支援を引き続きお願いした旨の依頼があった。その後も和やかに歓談が続き閉会しました。

特別講演会 開催報告



講演される杉澤里美氏

令和元年度通常総会に引き続き、同会場にて開催された講演会では、水道産業新聞社記者の杉澤里美氏（平成三十一年、理工・土木卒）が「上下水道のあれこれ」と題して、約三十分講演をしていただきました。

上下水道事業の最近の動向と自身の取材活動を通して、興味深いと感じた取り組みなどを中心に紹介していただきました。

会報向けにご本人に講演の概要について執筆していただきましたので、掲載させていただきます。



特別講演会の様子

『上下水道のあれこれ』
講演を振り返って

杉澤里美

水道事業、下水道事業ともに人口減少による使用量収入の減少や施設の老朽化対策、職員不足など課題が山積している。直面する課題を解決するための取り組み事例をいくつか挙げ紹介した。水道事業で関係者の関心が高いのは昨年十二月の水道法の改正（今年十月一日に施行された）だとし、水道法改正のポイントを説明させていただきました。

若者に下水道の役割を伝える 「管路更生大学」



発表スライドより（管路更生大学）

2018年12月に水道法改正 “水道の基盤強化”がキーワード



発表スライドより（水道法改正）

アート下水道



発表スライドより（アート下水道）

若者の目線を生かした広報 東京地下ラボ by 東京都下水道局



発表スライドより（若者目線で広報）

下水道事業では資源・エネルギー利用の推進を行っていることを紹介されました。また、下水処理の過程で発生するエネルギーを使う取り組みで、例えば、下水から熱を回収し、融雪に使用したり、冷暖房や給湯機で使用したりしている。バイオガスから生成した水素で自動車を走らせたリ、余った熱を使って、ピニルハウスで野菜を育てたりする取り組みも各地で進められている。

教育、コミュニティ形成など様々な分野に貢献していくことでしょう。「下水道は単に汚れた水进行处理するだけでなく、限らないポテンシャルを持つている、まさに『宝の山』だ」と強調した。

また、下水道の魅力を若い人たちに伝える取り組みも広がっている。生産工学部で実施している管路更生大学がある。更生工法のデモンストラーションを通して下水道施設の維持管理の重要性や、やりがいを理解してもらうためのものが、企業や団体、大学が協力して取り組んでいる。

このように次世代を担う若者を業界全体で育てるという取り組みがもつともっと増えていくことを期待する。

課題が多様化する中で、下水道界は多分野との連携を求めている。そのひとつの事例として最近、取材をしていて面白いなと思った取り組みを紹介した。水の総合コンサルタントの日本水コンが取り組んでいる「アート下水道」プロジェクトだ。同社で会長をされている野村喜一氏（理工・土木・昭和四十六年卒）が女子美大生と対談し、熱い意見交換を行っていた。異なる分野とコラボレーションすることでお互いに刺激し合うことで、新たな発見があり、とても興味深かった。

最後に「どの世界でも同じことが言えると思うが、上下水道事業を持続していくために、若い人たちが興味を持ち、夢を抱きながら入ってきてくれるような魅力ある業界にしたいな」といけな。これからは私にできることでお手伝いしていきたいと思う」とまとめた。

学生向け 講演会 開催報告

平成三十年五月三十日、理工学部土木工学科の三、四年生を対象に災害対策の実際や災害発生メカニズムを学ぶ「災害管理」の講義で実務的な立場でUR（都市再生機構）本社の加藤巧氏（理工土木・昭和六十二年卒）に「URの震災復興支援の取り組みについて」講演頂きましたので、本講演会を企画した業務部長の神保廣光副会長（理工土木・昭和五十二年卒）に開催報告を執筆していただきましたので掲載させていただきます。

（会報発行の都合により、平成三十年度の講演会の報告となります。）

『災害復興に携わる実務者からの特別講演会の報告』

神保廣光

URの震災復興支援の取り組みの講演は今年度で5年目と



加藤氏を紹介する神保副会長

なります。講演内容は昨年引き続き、UR東日本都市再生本部の加藤部長にURの支社(復興支援局)や本社に在籍での復興支援の立場から、UR全体の震災復興支援の取り組みを紹介頂きました。約六十名の学生が災害対策の実際や災害発生のメカニズムを



講演される加藤巧氏

学ぶ「災害管理」の講義として受講しました。講演内容は以下の四点に大別されます。

(I) 1. URにできること

- ①都市再生フィールド
- ②住環境フィールド
- ③災害復興フィールド
- ④郊外環境フィールド

2. 東日本大震災における復興支援

- ①URの復興支援内容
- ②復興支援事例の紹介

(i) 女川町の取組み、(ii) 陸前高田市でのベルトコンベアや超大型重機による大幅な工期の短縮を動画で紹介

3. 熊本地震における支援

- ①熊本県災害対策本部の支援
- ②被災宅地危険度判定に係るコーディネート

4. 災害に強いまちづくりに向けて

- ①東日本大震災の経験等を踏まえた課題
- ②災害に強いまちづくりに向けて

なご、具体の講演内容は「日大土木会会報第二十三号(平成二十九年九月十五日発行号を参照頂き、今回は(II)受講生の感想文及び(III)質問に対する講師の回答を主体に紹介させて頂きます。

(II) 受講生の感想文の紹介

受講者の意向を尊重してできるだけ原文とし、内容を6

項目(①URについて、②復興支援について、③復興技術について、④被災宅地危険度判定士について、⑤災害に強いまちづくりについて、⑥講演を受講して)に分類して代表的な感想を数例紹介させていただきます。

①URについて

UR都市機構は幅広いフィールドで活躍していた。都市再生や住環境、郊外環境など、私達の暮らしを良くするために従事されていたが、最も活躍している分野は東日本大震災の復興支援だった。

③復興技術について

復興工事に関しては、工期の短縮、スピード施工を行うためにベルトコンベアを使いダンプ運搬と比較して工期を6年も短縮して、さらに土運搬の際の土の飛散防止や50台以上の監視カメラによって安全面の確保、そしてベルトコンベアの名前を地元の小学生から応募してもらった地域との密着性にも考慮されている、工期の短縮とまちのシンボル化を両立させていたことは難しいことであると思うので、こういうところに会社

の良さというか、まちへの思いが反映された結果なのだと思います。

②復興支援について

被害を受けた都市を再生する際、都市の利便性の向上のために、ただ合理的に都市を形成するのではなく、地元住民の意向が、その方々の職種にあった都市再生を行うことを学び、ただデータに基づき業務を行うのではなく、現地へ赴き住民調査等地域に密着した取組みの重要性を認識

した。女川町の多くの写真を見るに災害の怖さを改めて知ることができたし、女川町をどのような方向で復興していくかという話を聞いたことで頭の中で想像することができ震災の現場がどのような状況だったか、また復興はどのようにしていくのかなど具体的な話がが多く、講義を聞きながら想像ができて印象として残っている。



学生向け特別講演会の様子

④被災宅地危険度判定士について

被災宅地危険度判定市について知らなかったが、授業を通して、仕組みや調査内容を知ることができた。宅地の二次災害が起きないのも判定士によって安全が確保されているのだと感じた。宅地に貼られるステッカーは居住者だけではなく、危険が及ばないよう

⑤災害に強いまちづくりに向けて

たくさん課題があることが分かった。職員不足や、用地買収の問題などがあり、その中で街を復興させ、もう一度住民がその場所に帰ってくるためには、早期復興が求められる。被災地を復興させる街が元に戻っても、そこに人が戻ってこなければ意味がなくなってしまう。復興の難しさを知ることができた。

⑥講演を受講して

今まで、土木の分野の中であまり興味を持っていなかった災害復興や都市整備のことについて興味を持つことができ、実際に自分が将来こういった仕事をするのも良いかなと感じた。

今日の講義を受けて土木の仕事に就く人は災害時にこそチカラが問われるものだと思えて思った。施工や維持管理などの日々の仕事も我々の生活にとっては重要だと思ふ。

しかし、災害が発生した際にいかに早く対処できるかが土木を仕事にしている人にとって一番必要なチカラだと感じた。将来、仕事就いた際にはすばやく対処できるように、学生の内から災害について学び考えていきたいと思う。

(III)講演における質問に対する講師の回答

Q 被災宅地危険度判定士はどのタイミングで資格を取ったのでしょうか？

A 被災宅地危険度判定士は、一定の専門技術資格・経験を有し、都道府県等が実施する被災宅地危険度判定士

講習会を受講し、有効に登録された者です。

私の場合は、震災関連業務に携わるようになった平成十九年に資格を取りましたが、三年程度の実務経験があれば、資格の取得ができます。

Q 嵩上げた住宅地は漁業をしていて人達の労働環境はどうしているのか気になった。

A 漁港背後の低平地で暮らしていた漁師さん達は、高台で暮らすことになりましたが、漁具置場や荷捌き場などは低平地に再整備したこと、高台住宅地も可能な限り海が見える配置としたことにより、労働環境の悪化を最小限にする工夫をしています。

Q 避難場所の計画において、人は「安全そう」だと思う場所に逃げるため、安全そうに見える避難場所を説明

A 必要かねと聞いたのだが、安全でない所を、安全ではない(避難すべきだという)事を明示する工夫は何かあるのか。

A (一)質問の趣旨を理解しき

れていない答えかもしれませんが、避難すべきだという事を明示する工夫の一つとして、所在地の標高と、震災時の津波高さを明示するということがあります。「津波でんでんこ」という東北地方のことわざがありますが、「津波が来たらまず自分の命を守るために真つ先に高台に向かって逃げる」ということが必要です。

Q ベルトコンベアを立派にライトアップされていたり、名前がついたりしているが、今後も残す予定であるのか？また、環境アセスなどの事で、もめごとになったりしないのだろうか？

A 講義の中で説明不足でした。ベルトコンベアおよび気仙川を横断する希望のかけ橋は、震災遺構として残すことも検討されましたが、役目を終えた二〇一六年九月に撤去されています。

また、環境アセスについては、復興特例を適用し、手続きの迅速化を図っていますが、採め事になったと

は聞いておりません。Q 海の近くで工業等を多くつくって水質的には問題はないのかと思つた。

A 漁港背後の低平地(工業ゾーン)は、水産加工場を建設しているので、水質的な問題はありません。

Q 市街地の整備を行ったあと、どのようにして、移住して行った方々を、市街地に戻していくのかなど、計画に入っているのか気になりました。

A 市街地の整備が完成したあと戻ってくる方法は、公共側が整備した災害公営住宅に入居する方法と、自立再建といつて整備した宅地に自分で家を建てる方法があります。いづれの場合も、計画段階でエリア毎の完成時期や整備状況などの情報を提供し、希望調査を行うなど、円滑な入居に努めています。

受講生の感想は昨年と同様、昨今の災害は地震だけではなく豪雨災害等いつ起こるか分からない災害に対する意識が高いこと。自分自身でも災害が起きた場合は役に立

ちたいといの多くの意見や災害の状況や復興を風化させてはいけない等、生の声を紹介させて頂きました。また、今回はより内容を知りたいとの強さの頭れかと思いましたが多くの質問が寄せられました。講師の加藤様からご多忙にもかかわらず、丁寧な回答を寄せて頂きましたので紹介させて頂きました。

最後に、実際に復興支援に携わったURの方に復興手法や取組等を判り易く説明頂き復興支援がイメージできた等感謝の声が多かったです。「災害や復興」を伝えていくことの重要性を再認識しました。加藤様ありがとうございました。



(なお、令和元年度も五月二十九日(水)に理工学部駿河台校舎において特別講演会を開催させていただきました。

約百名の土木工学科の学生に対し、加藤巧のご自身の経験に基づく災害復興支援活動等についてご講演をいただきました。御礼申し上げます。事務局・鎌尾)

事務局より

第二十六号の会報は、令和元年度の通常総会及び懇親会・特別講演会・学生向け講演会の話題等を掲載いたしました。本会報及び本会に対するご意見並びにご要望等がありましたら、お気軽に事務局までご連絡をお願いいたします。

また、皆様のお知り合いで日大土木会に入会希望者がおられましたら、入会申込書類等を送りますので、事務局にお知らせ願います。

最後に、本会は皆様方の会費により運営されており、本年度の年会費の支払いを忘れていらっしゃる方は、お早めにお支払いいただけますようお願い申し上げます。

(S・K)



